学部 / 看護専門領域 / 健康・疾病・障害の理解
科目コード：130009

# 解剖生理学実習 Practicum: Human Anatomy and Physiology

| | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 市丸 徹 | | | | | | | | | | | |
| 実務経験 | | | | | | | | | | | | |
| 開講年次 | 1年次後期 | | 単位数 | | 1 | | | 授業形態 | | 実習 | | |
| 必修・選択 | 必修 | | 時間数 | | 45 | | | | | | | |
| 該当ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ・ﾎﾟﾘｼｰ | (1) | | (2) | ○ | (3) | ◎ | (4) | | (5) | | (6) | |
| Keywords | 解剖学、生理学 | | | | | | | | | | | |
| 学習目的・目標 | 解剖生理学、解剖生理学演習の各講義で得た知識をより深く理解し、定着させるための実習・演習・講義を行います。また、まとめ回での発表・討論とそれに向けての準備を通して、主体的な学習を身に付けます。<br>【目的】<br>自分の身体や生体材料などを用いた演習・実験を通して、生命現象に対する理解を深める。また自ら適切に判断し、的確に行動できる思考能力を養う。<br>【目標】<br>1. 全員が実習に参加し、自分の知識を再確認する。<br>2. 解剖学・生理学の基礎的な実験手技を体験する。<br>3. 実験結果のまとめ方とプレゼンテーションの仕方を学ぶ。 | | | | | | | | | | | |

授業計画・内容

| 回 | 内容 |
|---|---|
| 1-2 | 感覚器系（体性感覚、特殊感覚） |
| 3-4 | 心電図、血圧、肺気量、感覚（実習） |
| 5-6 | まとめ・発表会1（演習） |
| 7-8 | 体温調節のしくみ、発熱 |
| 9-10 | 酸塩基平衡の調節 |
| 11-12 | 浸透圧実験（実習） |
| 13-14 | まとめ・発表会2（演習） |
| 15-16 | 栄養素の利用 |
| 17-18 | 生殖器系のはたらき |
| 19-20 | 体表解剖学（演習） |
| 21-22 | ラット解剖（実習） |
| 23 | まとめ・発表会3（演習） |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 座学・演習の回では講義資料（PDF）を、実習の回では事前に手引書を配布する予定です。<br>解剖生理学、解剖生理学演習での教科書・参考書は各自で必要に応じて使用してください。 |
| 参考図書等 | 三角定規、分度器、色鉛筆（12色程度）、白衣を用意して下さい。<br>白衣の使用は11月以降です。10月に白衣の共同購入の機会がありますが、高校等で使用していたものでも構いません。<br>三角定規と分度器は10月（心電図）、色鉛筆は1月（ラット解剖）に使用します。 |
| 評価指標 | 成績評価対象者：出席2/3以上。レポート提出者。<br>試験60%、受講態度・レポート40%の配分で評価します。<br>レポートは必ず提出して下さい。未提出でも督促はしません。また実習への参加を重視しています。基本的には全出席してください。実習欠席者は自ら教員まで申し出てください。連絡がない者、レポート未提出者は単位が認定されない場合があります。 |
| 関連科目 | 解剖生理学、解剖生理学演習、代謝と栄養、疾病障害論、人間病態学、他多数 |
| 教員から学生へのメッセージ | 実習・演習においては、自分自身の手を動かし、自分で考え工夫することにより真の知識が身につきます。参加して実行することが重要です。また必ず事前に実習の手引き等で予習しておいてください。<br>実験では、常に教科書どおりの結果が得られるとは限りません。予想外の結果にも何らかの理由があるはずです。その理由を、これまでに学んだ知識を総動員して応用し、自分なりに考えてレポートにまとめ、議論して下さい。この科目を通して、主体的に考え、学んでいく姿勢を養ってくれることを期待しています。 |